

新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業の概要

事業名	一般国道251号 愛野森山バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	長崎県
起終点	自：長崎県雲仙市愛野町 至：長崎県諫早市森山町	延長	1.8km		
<p>事業概要</p> <p>島原道路は南島原市深江町から島原市を経由し、諫早市の長崎自動車道諫早ICへ至る延長約50kmの地域高規格道路である。愛野森山バイパスは、島原道路の一部を構成し、国土交通省が整備が進めている一般国道57号森山拡幅に接続し、諫早市森山町から雲仙市愛野町に至る延長1.8kmの自動車専用道路である。</p>					
<p>事業の目的、必要性</p> <p>島原半島地域は、雲仙天草国立公園という観光地を有し、県内有数の農業地域であるが、高速道路ネットワークから遠く離れた地域であるため、産業の発展に支障をきたしている。愛野森山バイパスの整備により高速道路のICを有する諫早市との時間短縮を図り、観光や農業等の地域産業の活性化に寄与することを目的としている。</p>					
全体事業費	92億円	計画交通量	11,100台/日		
<p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

地元自治体から構成される「島原半島幹線道路網建設促進期成会」「一般国道57号等県南地域幹線道路整備促進期成会」より、島原半島全域発展のため島原道路の早期整備を要望。

事業採択の前提条件

- 便益が費用を上回っている。(B/C=1.9)
- 円滑な事業執行が整っている

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.9	総費用：79億円 （事業費：77億円 維持管理費：1.4億円）	総便益：146億円 （走行時間短縮便益：123億円 走行費用減少便益：17億円 交通事故減少便益：5.6億円）	基準年 平成18年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=2.0 (交通量+10%)	B/C=1.8 (交通量-10%)		
		事業費変動	B/C=1.6 (事業費+10%)	B/C=2.0 (事業費-10%)		
	事業期間変動	B/C=1.6 (事業期間+2年)	B/C=2.0 (事業期間-2年)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	○	当該区間の整備により、主要渋滞ポイントである「愛野交差点」の渋滞を解消する。 【主要渋滞ポイントの解消】 主要渋滞ポイントである「愛野交差点」（渋滞長470m、通過時間7分）の解消 【渋滞損失時間の改善】 整備無しの場合：105.9万人・時間/年→整備有りの場合：37.3万人・時間/年(現道)		
		事故対策	○	交通流の分散により、現道の事故件数の減少が見込まれる 【死傷事故率】 整備無しの場合：209件/億台km(現道) 長崎県平均92.2件/億台km(2.3倍)		
	歩行空間	—	注目すべき影響はない。			
	社会全体への影響	住民生活	○	島鉄バス 長崎空港線（特急バス）4往復/日 3次医療施設（国立病院機構長崎医療センター）への搬送時間短縮：約2分		
		地域経済	○	長崎空港及び諫早ICへの移動時間短縮：約2分 島原半島の農産物の輸送時間短縮：約2分		
		災害	○	第一次緊急輸送路として位置づけられている。		
環境		○	CO ₂ 排出量の削減 2,800t/年			
	地域社会	○	主要な観光地へのアクセス向上 旧小浜町：約248万人、島原市：約62万人			
事業実施環境	○	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎県長期総合計画における整備の位置づけ ・地元自治体の強い要望 				

採択の理由

- ・費用対便益が【1.9】と便益が費用を上回っている。
- ・当事業の整備により主要渋滞ポイントである「愛野交差点」の解消及び、交通事故の軽減による沿道地域住民の安全性が向上するとともに地域の社会活動や経済活動の活性化が図られる。
- ・以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。